



2024年5月31日

各 位

会 社 名 那須電機鉄工株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 鈴木 智晴
(コード5922、東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 専務取締役 西岡 雅之
(TEL. 03-3351-6131)

中期経営計画の進捗状況について

当社グループは、2022年5月24日に2022年度から2024年度の3年間の第2次中期経営計画を公表いたしました。つきましては、計画2年目の進捗状況を下記の通りご報告いたします。

記

1. 2023年度の実績について

(1) 中期経営計画目標の進捗

2023年度指標別実績対比

単位：百万円

	売上高	営業利益	営業利益率	当期純利益	ROE
当初計画	23,000	1,840	8.0%	1,380	6.0%
実績	23,334	2,647	11.3%	1,850	7.2%
差異	334	807	3.3%	470	1.2%

売上高につきましては、電力インフラ事業におきまして、電力各社のレベニューキャップによる事業計画により一定の需要があり増収となりました。具体的には、送電設備関係では2022年度に受注した東北東京間連系線など幹線鉄塔の生産を軸に二次系鉄塔の受注もあり大幅に売上高を伸ばしました。なお、配電設備関係では電力各社の修繕費抑制に伴い売上高の低迷が続きました。通信インフラ事業では前年度に引き続き、通信鉄塔の延命化工事の受注停滞や通信基地局向け資機材の大幅な減少傾向が続きました。

交通インフラ事業では、高速道路の各種設備の改修に伴うガントリーなど鋼構造物の受注に加え工事付き物件の鋭意受注に努めました。

その結果、売上高は233億34百万円（前連結会計年度比5.8%増）となりました。

利益面では、八千代工場の鉄塔や会津工場の碍子など生産は繁忙が続いたことに加え、工事案件では効率的な施工を行い工事期間の短縮が図られたことなどにより増益が図られました。

その結果、営業利益は26億47百万円（前連結会計年度比8.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は18億50百万円（前連結会計年度比0.3%減）となりました。

(2) 投資の状況

当社グループの設備投資額は28億34百万円となりました。中期設備投資計画を基に、生産設備の効率化の投資や環境負荷低減に繋がる設備の維持・更新及び人事・給与や会計などの基幹システムにおいてグループ会社間の共用と連携等を実施致しました。

具体的に会津工場では、碍子の焼成工程において老朽化著しいトンネルキルンからシャトルキルンへの完全移行が完了しトンネルキルンは生産停止しました。

八千代工場では、2022年度より建築を進めてまいりました新めつき工場棟が完成し2024年6月には本稼働を目指しております。



2. 今後について

引き続き、当社は第2次中期経営計画（2022年度～2024年度）に掲げております経営戦略や施策等に則り、持続的な収益力の向上と企業価値の最大化に努めてまいります。

以上